

クラブミーティング2018 in しき 開催報告

日時：平成30年11月25日（日） 9:00～17:00

会場：【第1部】志木市立志木中学校体育館 【第2部】しっきーずステーション

内容：【第1部】9:00～12:00 大蛇ヶ淵^{おろちがふち}頂上決戦（4色対抗全7種目のスポレク合戦）

【第2部】13:00～17:00 秋オヒマチ

（ワークショップ、地域商店協力による飲食販売・骨密度測定、
ビリヤードや卓球などの体験・対戦）

参加者：【第1部】80人（選手+観戦の保護者や行政職員の視察等含む）

【第2部】70人（オヒマチ参加者+骨密度測定等への参加者含む）

【概要】

毎年、中学校の体育館をお借りして実施している色別対抗のスポレク合戦『大蛇ヶ淵頂上決戦』と、頂上決戦の参加者がステーション（クラブハウス）に移動して季節の料理とともに親睦を深めたりディスカッションを楽しむ『秋オヒマチ』。今までも、参加対象者は世代や障がいの有無を問わず“どなたでも”で実施してきたが、今年は彩の国SCネットワーク主催事業として位置づけ、埼玉県内の総合型地域スポーツクラブ（全クラブ）に参加を呼び掛け、実施した。

【実施内容】（※活動のようすは別紙参照）

<第1部：大蛇ヶ淵頂上決戦>

50名を超える参加者を4色のチームに分け、各チームの大將（リーダー）を小中学生が、参謀（サブリーダー）を20代のクラブメンバーがそれぞれ務めた。今年も参加者の年齢層は広く（7歳～85歳）、開会式で志木市長からの「くれぐれも張り切り過ぎてケガをしませんように」のメッセージに、20代～80代の参加者がお互いに笑い合った。また、選手紹介タイムでは、選手エントリーしている埼玉県議会議員・志木市議会議員のメンバーも「はい！」と大きな返事をし、笑いとお声が上がった。

スポレク合戦は、ラダーリレーから始まり、車イスリレー、ドッジビー、ユニホッケー、椅子取りゲーム、リングボール、スウェーデンリレーなど、全7種目を競い合った。特に、リングボールでは、スポーツ用車イスを各色1台ずつ使用し、「車イス選手のゴールは2点」という新ルールを設けたところ、車イスに乗った参加者（シニア女性や下肢障がいの青年）にたくさんパスが渡り、多くのシュート機会が生まれた。

<第2部：秋オヒマチ>

頂上決戦から引き続き参加するメンバーに加え、頂上決戦に出場した小学生の保護者や、『オヒマチ』の開催を事前にお伝えしてあった近隣住民など、多世代で多様な参加があった。特に、近隣商店の協力により実現したビールサーバーの設置や焼き鳥の販売、そして骨密度測定コーナーでは順番待ちの列ができるほど多くの参加と、「骨密度測定が楽しかった」「今日は家事のことは忘れて運動後のビールを楽しむわ」などの声をいただいた。

【まとめ】

<成果>

- 世代・障がいの有無に関わらず多様な顔ぶれであった。
(※今までもそうであったが今年は更に多様であった)
- 4色チーム対抗戦の形式により、参加者全員で「共創」「競争」をし、初対面同士であっても互いに声を掛け合ったり、協力したりしていた。
- スポーツ実施率の低い若い世代や障がい者に丁寧な働きかけを続けたことが、昨年よりも多くの参加につながった。
- 彩の国 SC ネットワークの参加者を想定し、初めてステーション脇の私道スペースを活用したことにより、近隣商店の協力を得て、今まで立ち寄りのなかった住民にも、交流の機会を創出できた。
- 駐車スペースのスポレクブースでの対抗戦は午前中のチーム戦とは異なる、個別でフレンドリーなコミュニケーションがはかられていた。

<課題>

- 参加費について（頂上決戦でのビブスシェア枠について）
⇒しっきーずクラブミーティングにても検討の結果、¥1,500/ペア枠の設定は次年度から無くす方向性で決まった。（※参加していると楽しさが上回り、出場したい気持ちからシェア同士の同時出場が出現したため）
- オヒマチへの参加について
⇒予約申込が半数であり、頂上決戦参加者がオヒマチへも引き続き参加したため、例年以上の賑わいをみせたものの、飲食準備数に課題が残った。
- 彩の国 SC ネットワークの主催事業であったが、SC ネットワーク関係者の参加は2クラブであった。また、埼玉県内の総合型地域スポーツクラブ（全クラブ宛）に郵送にて本事業の案内をしたが、返信は2クラブのみであり、非常に残念であった。
- ワークショップについて
⇒『クラブしっきーずのチャレンジ ～スポレクをツールにまちづくり～』の資料を準備してクラブの活動について説明した。質疑応答の中で、話題は次年度以降のクラブミーティングの開催や内容についても及んだ。

<その他 ～寄せられたコメント～>

- ◆予想通り素晴らしい内容で、とてもいい経験になりました。一緒に参加した娘も、すごく楽しかったようで、しっくいずに入りたいと帰りの車で話していました。

(クラブミーティング 2018 担当理事)

- ◆参加者が“ただ参加しているだけ”にならず、全員でプログラムを作り上げていく「全員メンバー」ということを感じました。

地域との関係性が理想的で、今後総合型地域スポーツクラブが担っていくべき役割をすでに果たしていて、学ぶことが多くありました。

(埼玉県体育協会 クラブアドバイザー)

- ◆イベントでは、主に障害のある参加者たちが、どう楽しんでいるのか、周りの参加者達との関わりを中心に拝見させて頂きました。以下、感想です。

- リングボールの試合で、Nちゃん(知的障がい者)がシュート打つときみんなが待っていました。あのような場面をみると、地域の理解があるのだなと感じます。
- Tくん(下肢障がい者)の様子も見ましたが、本当に楽しそうでした。ドッチビーを投げるとき、勢い余って転んでしまうことが数回ありました。下肢に障害があり、激しく動いたら転んじゃうことは自分でも分かっているはずなのに、それでも思い切り投げるといことは、それだけ集中していたし、楽しかったんじゃないかなと感激しました。転んだとき、周りの小学生が「大丈夫？」と自然に手をさしのべていました。
- 椅子取りゲームの時、Nちゃんが、椅子が取れずに泣いてしまった2歳くらいの子どもを慰めていました。ついでに、椅子を一個持ってきて、プレゼントしていました。なんとか泣き止ませようとしたのでしょう。勝ち負けじゃないスポーツの良さを垣間見た気がします。頂上決戦、本当に楽しかったです。

(NHK ハートネット TV ディレクター)